＜注　意＞　●この資料は個人の趣味により発行されたものであり、各版権元とは一切関係ございません。
●“時代区分”はあくまで目安です。時代が下がるにつれ前時代の写し、流行の伝播の速度、研ぎの状態、地方性等により刀の姿は変りますので予めご了承ください。
●用語は本阿弥流です。
＜禁止事項＞●無断の転載、改変、複写、転用、配布、SNS等インターネット上へのアップロード。

刀の姿と変遷 ＜延文・貞治型＞ 編

発行者 にやみゆ　X(旧Twitter) @niya_miyu

下流へ ←下がる　＜ 時　代 ＞　上がる→ 上流から

廃刀令 1876 / 尊皇攘夷運動 1848 / 1772 / 戦争のない時代 町人文化 / 登城の為、常寸が定着してくる / 明暦の大火 / 島原の乱 / 徳川幕府成立 1596 / 戦国時代 / 室町幕府成立 1392 / 南北朝内乱 1333 / 鎌倉幕府成立 1185 / 源平合戦

かつてない刀の大需要で驚異的に発達!!

西暦

時代	新々刀		新刀				古刀				
	幕末	江戸後期	元禄	寛文延宝	寛永	慶長元和	室町 後期	室町 前期	南北朝	鎌倉 後期	鎌倉 前期
身幅	広い（刃長と比べてどうか?! 目安は1寸(3cm)以上）									未出現 平造短刀が主流	
反	先反り（棟角(みねかど)の反り。棟筋(みねすじ)ではない事に注意!!）										
重	厚		本造脇指が主流 延文貞治型は特注品			厚	厚	薄			
重	厚					厚め	薄	薄			
フクラ	つく					つく	枯れ気味	枯れる			
句口	フックラ					締まりごごろ		フックラ(沸が強め)			
	ギリッと締る						ギリッと締る(関)				

腰元（こしもと）

先（さき）

水心子系
加藤系
清麿系
etc

堀川系
三品系
肥前系
etc

相州伝
備前伝
美濃伝
etc

相州伝
備前伝
長谷部系
左文字系
etc

物吉くんも延文貞治型
言わずと知れた家康公のラッキーチャーム☆

1362年
康安2年紀「火車切」は
延文貞治型の代表的な刀だけど
元重の厚みがあるよ

600年以上経て
この健全度!! すごい…
（個体差だね!!）

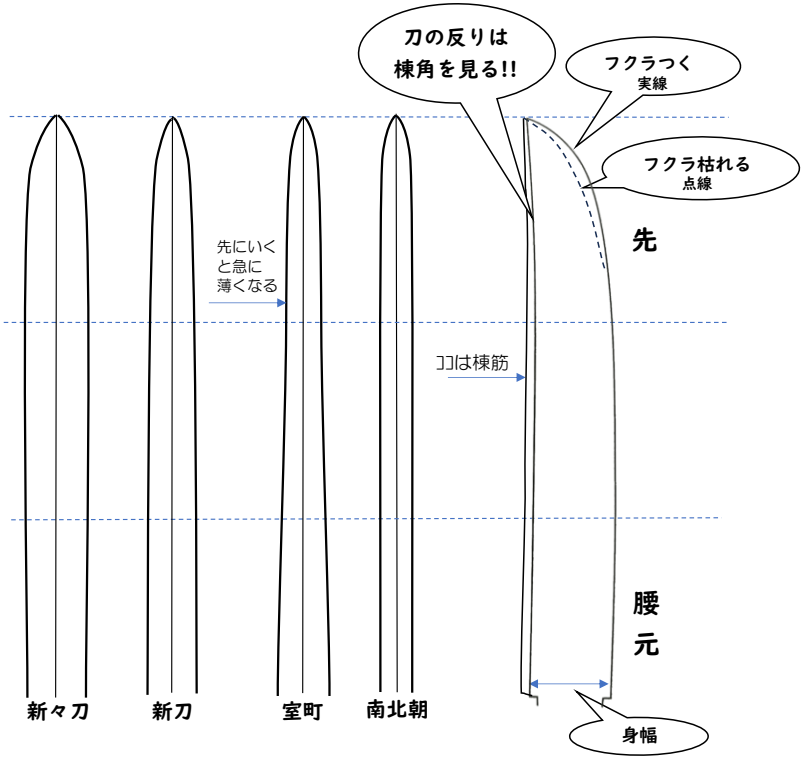
そもそも延文・貞治型ってナニ？？

→相州伝系の刀匠が 延文1356～貞治1368（南北朝）頃に好んで造った平造小脇指(ﾋﾗｽﾞｸﾘｺﾜｷｻﾞｼ) または 寸延短刀(ｽﾝﾉﾋﾞﾀﾝﾄｳ)のコト。

- 刃長 1尺1～2寸（33～36cm）が多い　※8寸～1尺3～4寸までである。1尺4寸を超える大平造もこの頃から出現。
- 先反り
- 身幅広い

→他に

- 平肉少ない
- フクラ枯れるか、枯れ心
- 重(かさね)薄い
- 真の棟（三つ棟）

これらが、一応の特長とされている。
但し、後世の研ぎや修繕で個体差あり。
最初は「重(かさね)」に注目できればOK!!

＜参考文献＞中原信夫著『刀の鑑賞規範』